

令和3年度 学校評価書

学校名:和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名:梶野作治

目指す生徒像

- 社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成
- 平和を愛し、人権やルールを大切にす人間愛に満ちた生徒の育成
- 運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成

本年度の重点目標

- 開かれた学校
- 豊かな心の醸成
- 確かな学力の育成

- ・家庭、地域との連携を図るため、教育活動を広報する。
- ・生徒、保護者、地域の声を反映させ、特色ある教育活動を展開する。
- ・全教育活動、教育場面を通して、自他の「命」を最優先して尊重する態度を育てる。
- ・基本的な生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。
- ・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。
- ・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価
<p>安全教育・安全管理</p> <p>生徒指導部と協力し、交通安全講話等を実施し、通学時の意識向上を考える。避難訓練を実施し、緊急避難時の避難経路等を生徒に把握させ、自己防衛の意識を持たせる。特に、今年度も引き続き保健部と協力し感染症予防にも力を入れる。また、職員においても、生徒の誘導等生徒の安全管理の意識を充実させる。</p>	<p>特設LHRを実施し、全校生徒に対して講話してもらう。また、常設LHRの時間を利用して、地震時の避難訓練とその後の津波時の避難訓練を同時に行い、避難場所の違いを生徒に指示誘導し、把握させる。併せて個人の判断の大切さも理解させる。感染症予防として、平時における危機意識と日々の衛生管理の大切さを十分に理解させる。</p>	<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、各種行事・式典を執り行うことができた。安心・安全に学校生活を送ることができるよう、各分掌や管理職のコンセンサスを得ながら、学校全体として取り組むことで、生徒一人ひとりの防災意識の向上、新型コロナウイルス感染症の予防意識の向上につながった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、随時情報収集を実施し、迅速かつ適切な対応ができるよう体制を整えていく。新型コロナウイルス感染症対策による、様々な制限がある中でも、生徒たちが心豊かな学校生活を送れるよう、創意工夫した学校行事を実施し、命の大切さ、自尊感情、他者を思いやり行動する共助の心を育むことができるよう取り組む。</p>	A	<p>地域が育んだ豊かな人的資源や関係機関と連携し、幅広い見識が習得できるよう学校行事等において創意工夫する。安心・安全な生活を送るために、危機管理、危機意識の向上に関する取り組みを、引き続き実施する。本校定時制教育が、地域に根ざしたものとなるよう、HP等を活用して、情報発信を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、近い将来発生するといわれている南海トラフ地震にも備え、具体的な非常時対応方法と、それに対する意識の高揚を図る取組を継続して欲しい。 ・地震や津波に備え、自分の命は自分で守ることを自覚させ、さらに、地域の人々と連携できる人材育成に取り組んで欲しい。 ・バイク等の運転マナーをとうして、重大な事故を起こすことのないように、運転マナーの向上を図って欲しい。 ・通学時の安全についての意識向上のための交通安全講話は、引き続き実施して欲しい。 ・施設設備の老朽化、人手不足の点に課題がある。生徒の安全安心のためにも、この点の改善に取り組む必要がある。 ・非常事態時に即対応できるよう、心肺蘇生やAEDの操作、止血法等の指導を行って欲しい。市高生は、全員緊急時に対応できる体制ができればベストである。
<p>生活指導</p> <p>生徒数が減少しているが、大半の生徒については、素行面において問題なく学校生活を送れている。問題行動を未然に防ぐため、校内巡視を実施している。生徒の状況は、内向的な生徒、特定のグループの中でしか活動できない生徒が多く見られる。</p>	<p>細やかな声かけなどの事前指導に力を入れる。生徒相談室など、HR教室外での生徒との交流の機会を増やし、相互理解を促すための指導を行うことを目標とする。また、感染対策等に細心の注意を払いながら、生徒同士の幅広い交流の機会を作っていく。</p>	<p>昨年度と比較し、学校行事が実施できるようになったが、新型コロナウイルス感染症対策により制約も多く、生徒同士の交流の機会を十分に与えられない状況であった。また、生徒の問題行動については、年度当初は昨年度と比較すると増加傾向にあったが、学期を経るとつれ、生徒たちも落ち着きが見られ減少した。</p>	<p>生徒会活動を通して、生徒たち自身の要望を取り入れていく。また、生徒一人ひとりの規範意識を高め、全ての生徒が快適に学校生活が送れるよう指導していく。</p>	B	<p>引き続き、コロナ禍における新しい形態の学校行事を考えていく必要があると思われる。そのためにも、生徒会役員を中心とし、生徒会活動を活発に行っていく体制を整えていく。また、生徒指導に関して、従来の取り組みを継続して行い、生徒全員が安心して学べる環境を目指していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内向的な生徒が多く、コミュニケーション力が弱いと分析される中、教師誘導も行いながら、生徒会活動や生徒が自発的に動かなければならない行事を是非取り入れて欲しい。 ・外見だけで判断する指導ではなく、心の中まで浸透できる指導を継続して欲しい。 ・コロナ禍で不安定な生徒も増えていると感じる。生徒ととまでどおりコミュニケーションを十分は図って欲しい。 ・生徒の内面に働きかける指導を引き続き行って欲しい。 ・ヤングケアラーに該当する生徒がいたら、担当行政機関に引き続き連携対応する体制を整える必要がある。
<p>学習指導</p> <p>高校入学まで不登校だった生徒や、学習に取り組む姿勢が、身につけていない生徒が多く、このような生徒に対して適切な対応が必要である。また、多様な個性をもつ生徒一人ひとりが、目標をもって勉学に励むことができるよう、指導方法や指導体制の工夫改善が必要である。さらに、新たなICT環境を活用することで、生徒にとって分かりやすく理解が深まる授業の実現をめざす。</p>	<p>学び直しの観点を考慮し、基礎的・基本的な知識・技能等の習得をめざし、学習内容の精選や教材づくりを行う。また、本年度から導入される生徒一人一台の学習者用タブレットを積極的に活用することで、生徒一人ひとりの興味・関心等に応じ意欲を高め、やりたいことを深められる学びを心がける。欠課時数が増加傾向にある生徒には、生徒の生活実態を把握し、家庭と連携しながら個に応じた指導を行う。</p>	<p>基礎・基本の定着を図るために、生徒の特性に合わせた指導方法や教材開発を行い、生徒一人ひとりの興味・関心等に応じ、きめ細かく指導・支援することができた。特に、今まで行ってきた学習活動に、学習者用タブレットを活用したり、電子黒板やプロジェクトを使用する等、ICTツールを活用することで、非常時を想定した備えをただでなく、広がる学びや深まる学びが展開された。また、授業で得た知識や技能等がライセンズ取得につながり、生徒の学習意欲が向上した。</p>	<p>今後も基礎・基本を定着させるための手だてを講じる必要があり、生徒一人ひとりの学力や特性を見極めながら、全職員の間で共通理解のもと、指導方法や教材開発を行い、協働体制を整える。特に、生徒一人ひとりの可能性を引き出すように、ICTツールの活用環境を整備したり、少人数によるきめ細かな指導の充実を図るなど、切れ目のない指導を心がける。また、オンライン集會を実施する等、学校生活全般において、ICTツールを積極的に活用することで、学校生活を意欲的に取り組めるようにする。</p>	A	<p>生徒一人ひとりの個性や学習状況に考慮しながら、個に応じた指導を継続していくことが重要である。生徒の実態把握と相互理解を深めながら、生徒の興味・関心に応じた指導方法や、指導体制の工夫改善が必要である。特に、ICTツールの活用は、今後の学習指導には、必要不可欠であり、正しく活用するためにも、ネットワーク技術に関する理解と情報セキュリティに関わる知識を身につけさせることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・充実しつつあるICT機器を有効に使用して、引き続き生徒の学習意欲を高める授業をお願いしたい。 ・基礎的な学力がなければ社会に出ても苦勞するので、中学校の内容等学び直しができるように工夫して欲しい。 ・仕事と学びを両立させようとする生徒に対して、これからも応援を継続して欲しい。 ・コロナ禍において、先生方もオンライン授業等準備が大変だったと思います。生徒のやる気を損なわない配慮がなされた指導を、これからも引き続き行って欲しい。
<p>進路指導</p> <p>本年度末卒業予定者8名について、年度当初の進路希望調査では、大学進学希望1名、専修学校進学希望が3名いたが、他の4名は進路未定である。コロナ禍で企業の採用意欲が低下する一方、和歌山県においても一人社制の撤廃が打ち出され、就職希望者をめぐる競争が激化しつつある。進路未定者の大多数は就職希望になると思われるので、これまで以上に進路意識の醸成を急ぎたい。</p>	<p>専門科目を通して取得できるスキルや資格を、進学や就職に活かす具体例を提示し、必要であれば補習等実施する。また、2学期においては、今までの学習成果と自分の適性を踏まえ、具体的な業種・職種を絞り込む特設LHRを実施する。</p>	<p>2学期の進路LHRにおいて、進路指導の基礎となる生徒一人ひとりの認知的特性の調査を実施し、その内容を分析した結果、学習指導や学力評価の目指すべき姿を明らかにすることができた。しかし、卒業予定者で進学を希望する1名以外は、担任と連携して指導を行ったが、進路が決まらない状況にある。</p>	<p>就職に向けて、一歩を踏み出せていない生徒については、若者サポートステーションを紹介するなど、外部関係機関との連携を図る。進学の意思を示すが、具体的な校種・コース等が定まらない生徒については、本人と保護者の意向を詳細に汲み取り、情報提供と意思決定のサポートをより綿密に行う。</p>	B	<p>進路LHR等で行った各種調査結果やアンケートの内容を教職員で共有し、学校全体で進路指導を行っていく体制を構築して欲しい。また、卒業後の進路について生徒一人ひとりが主体的に考え、自己判断できる能力が習得でき試みを今後検討したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路未定者が多いという状況であるが、より早い段階からの個々の目標の設定に向けて、きめ細かい進路指導をさらにお願いしたい。 ・ICTを活用した進路の開拓に期待する。また、生徒の希望もあると考えるが、和歌山だけでなくより多くの企業や進学先が選択できるよう取り組んで欲しい。 ・就職、進学意識の向上につながるよう、生徒が自ら進路を考えられる体制を構築して欲しい。 ・進路指導に関しては、引き続き生徒一人ひとりに寄り添った指導の継続をお願いします。 ・進路指導の更なる充実を求めます。